

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503700		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウス二番館		
所在地	札幌市白石区北郷8条3丁目6番30号 (電話) 011-875-2500		
評価機関名	特定非営利活動法人 アイケア・ネット		
所在地	札幌市中央区南2条東1丁目1番地12		
訪問調査日	平成19年5月30日	評価確定日	平成19年8月31日

【情報提供票より】(19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤 1人, 常勤換算2.25人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	1～	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	① (72,000円) 無	有りの場合 償却の有無	① / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団翔嶺館新札幌聖陵ホスピタル 他4医療機関
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本家屋をコンセプトにして新築されたグループホームである。幹線道路に面しているため、安全面等から道路に面している部分は門と塀に囲われているが、建物との調和がとれており落ち着いた雰囲気となっている。設備の面では、人の目や音などを気にする方に配慮した配置のトイレもあり、利用者の状況に合わせた利用が出来るようになっている。利用者の認知症の状態に応じたユニット分け(家事生活型、重度認知症型)がなされており、利用者が安心して生活できるようにサービス提供が行われている。食材の買物に行く際など、利用者と一緒に外出する機会を多くもっており、日々の献立に利用者の希望を取り入れるなど楽しみを増やすよう工夫されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	グループホームが開設してから、初めての外部評価ですが、管理者や職員は今回の評価の意義を理解し、改善に向けて取り組む態勢が整えられている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	現状を把握した自己評価がなされており、サービスの質の向上に向けて取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、準備を進めてはいるが、日程調整の関係でまだ開催には至っていない。開催に向けた取り組みはなされているので、各所への日程調整を行い早めの開催が望まれます。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	4ヶ月に1回、ホーム便りを発行している。ホーム便りにおいて、ホームでの行事や日々の生活の様子を伝えている。苦情の受付窓口を明らかにし、話しやすい雰囲気作りを行い対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年は、利用者の状況により参加できなかった「夏祭り」等地域での行事にも参加できるよう取り組みがされている。理念でもある「地域で生活するすべての人々を支えるために」という役割を果たすためにも、今後更なる情報の発信を行っていくことが望まれます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、理念を作り上げている。又、パンフレットに～地域で生活するすべての人々を支えるために～を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者も職員も理念を理解し、日々確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族にはホーム便りを送付している。昨年は、地域から夏祭り等の案内が来ていたが、開設後間もなかったため、参加できていない。	○	利用者が地域により馴染める様、地域の行事への積極的な参加が望まれる。 地域の保育園や幼稚園との交流が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を受けることは、今回が初めてのため、評価改善には至っていない。	○	今回の評価を、更なるサービスの向上と意義の理解に繋げて欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の準備は進めているが、まだ開催に至っていない。	○	日程調整を早めに行い、運営推進会議の開催が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上不明な点や、判断できないことは、その都度市町村の担当者に確認している。定期的に行われる管理者会議の際にも、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪された際や郵送で定期的な現状報告を行っている。 4ヶ月に1回のホーム便りを発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付窓口を明らかにしている。又、話しやすい雰囲気作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の認知度に合わせたユニット分けを行っており、職員も能力に応じた配置がなされている為、職員の異動も行われているが、利用者への影響が最小限になる様配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修を行ったり、外部の研修へ参加させている。	○	外部の研修への参加だけではなく、職員から研修内容を募るなど、職員が更に知識を習得できるよう取り組んでいただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される管理者会議では、他事業所等との情報交換を行っているようだが、積極的な活動にはなっていない。	○	まずは、近くにある同会社のグループホーム等との勉強会や積極的な交流を行うことで、サービスの向上に繋げていただきたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居する際は、必ず見学をしてもらい、必ず本人が納得してから入居になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ることは利用者に協力してもらいながら、日々の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が望むような生活が支援できるよう、利用者の希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使用した介護計画が作成されており、職員一人ひとりが介護計画に係っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと共に、本人や家族の意向を採り入れた介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の外出や外泊へ向けた情報提供等必要な支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時からホームが対応できる利用者の状態を説明し、承諾を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮した声かけ等行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お酒を楽しまれたり、タバコを吸ったり、それまでの習慣を安全に、一人ひとりのペースを大切にして支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物を一緒に行ったり、献立の希望をとったり、利用者が参加した状態で食事の支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者に希望に合わせた入浴支援が行われており、基本的に同姓介助で利用者の羞恥心に配慮されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝いや茶碗洗い等、利用者の状態に応じた役割を担ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物の際に、公園にも立ち寄る等、外出の機会を多く作る様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中も玄関に鍵がかけられている。	○	ホームの立地上施錠が必要な面もあるとは思いますが、もっと地域にも協力を求め、連携をとっていくことが望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練が行われていない。	○	避難場所の再確認と避難訓練の早急な実施が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた水分量等が把握されている。食事制限が必要な方は、病院と連携した栄養管理等なされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本家屋をコンセプトにした落ち着いたのある空間で、トイレの配置等利用者に配慮した居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がそれまでの生活で使用していた家具などを持ち込んでおり、居心地良く過ごせるよう工夫がされている。		

※  は、重点項目。